

## 令和6年度 第4回江別市総合戦略推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和7年3月25日（火）午後6時から午後6時45分まで

場 所：江別市民会館2階21号室

出席委員：福沢康弘委員長、龍田昌樹副委員長、保田真希委員、佐々木尚弘委員、  
佐藤裕則委員、畠山真理委員、干野里佳委員、佐藤誠一委員、  
小橋恵美委員、鈴木笑子委員  
（計10名）

オブザーバー：北海道石狩振興局地域創生部 矢野敦子部長、  
日本IBM（株） 佐藤潤マネージング・コンサルタント  
（計2名：オンライン参加）

欠席者：布施望委員、伊藤亮子委員

事務局：三上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、中島デジタル政策室長、  
天明屋デジタル政策担当参事、鈴木主査、馬場主査、但馬政策推進課参事、  
北島主査、眞鍋主査

傍聴者：なし

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 報告事項（1）第3期江別市総合戦略について（資料1、2）

【資料により事務局説明】

##### ○福沢委員長

4月から始まる、新しい総合戦略の最終案の報告をいただいた。

前回の委員会で、各委員の意見等を踏まえて、指標の変更等を加えた案を、パブリックコメントに付され、江別駅周辺の賑わいに関する具体的取組を追加されたとのことである。

事務局からの説明に対し、委員の皆様から質問や意見はあるか。

【各委員：無し】

##### ○福沢委員長

それでは、当委員会として、第3期の総合戦略について、報告のとおり確認を終える。

#### 2 報告事項（2）新しい地方経済・生活環境創生交付金の活用見込について（資料3）

【資料により事務局説明】

##### ○福沢委員長

国の交付金を活用した事業実施予定について、説明いただいた。

第3期の総合戦略の開始に合わせて、シティプロモーションを強化する事業、江別駅周辺の「かわまちづくり」と連動する拠点整備事業、デジタル技術を活用するための三

つのデジタル実装事業について、新規事業として取り組まれる予定とのことである。

江別市の認知度を高める取組のほか、DXを一層進める取組となっており、是非、総合戦略の推進に活かしていただきたい。

事務局からの説明に対し、委員の皆様からご質問やコメントはあるか。

○千野委員

デジタル実装型のキャッシュレス決済導入事業について、機器導入などの初期費用と、毎年度必要になる経費があると思うが、いわゆる手数料はどのくらいになるのか。

○事務局

導入する事業者によって異なるが、手数料は1件あたり3%から4%程度になると想定している。ただし、決済サービスの種類によっては、もう少し手数料の変動があると聞いている。

○佐藤裕則委員

えべつシティプロモーション高度化プロジェクトについてだが、江別市長も「子育てするなら江別市で」という事をおっしゃっており、ターゲットを北海道内の子育て世代に定めることは理解するが、周辺自治体も子育てに力を入れている状況で、江別市としてどのように差別化してプロモートしていく予定か。

○事務局

今回、シティプロモーション高度化プロジェクトでは、大きくは、まちづくりアドバイザーを新規に登用し、テレビを含めた様々な媒体で市の魅力をPRするほか、動画を作成することなどを予定している。

また、FMラジオ番組内に江別市紹介のコーナーを設けて、市のPRをしていくという、江別市では初めての取組に挑戦する予定である。ラジオでは、MCの方が原稿を読み上げるといった方法が一般的ではあるが、今回は、市職員や市内で活躍されている方が生出演して、MCとトークしながら市をPRするという取組を予定している。

子育て世代をターゲットとすることについては、江別市では年少人口の転入超過が6年連続で全国20位以内となっており、その流れを止めないために、道内の子育て世代の方に対して、市をPRしていきたいという考えである。

令和7年度の予算については、昨日（令和7年3月24日）に議決されたところであり、4月から具体的な打ち合わせに入っていくが、アドバイザーとして就任予定のヒロ福地氏は江別市出身で、情報発信に長く携われてきた方であり、番組は20代から40代の女性のリスナーが多いという事であるので、江別市の魅力をより一層発信していただきたいと考えている。

なお、具体的に伝えていきたい江別市の魅力などについては、ヒロ福地氏や庁内の担当部局と相談しながら決めていきたい。

○佐藤裕則委員

子育てしやすいという意味では、女性が働きやすいとか、母親が育児しやすいという視点で見られやすいが、育児休暇をはじめとして、江別市は父親も育児に参加しやすいまちだという認識が高まってくれば良いのではないかと感じた。

○畠山委員

意見の一つとして、魅力の向上のための動画作成も必要だと思うが、子育てに関する

「制度」を紹介する動画も用意してもらえると、子育て中の方は助かるのではないかと感じた。子育て中の方が移住を意識したとき、移住した先での生活をイメージするので、例えば子どもが急に発熱した際に使えるサービスや相談先など、子育て支援制度の紹介動画で整理されていると、安心感があると思う。

妊娠や出産時に、様々な制度の冊子をもらうのだが、「困った時」に調べることが多いので、すき間時間で見ることができる紹介動画があっても良いと考える。

#### ○小橋委員

私自身、よくラジオを聞いており、MCが近隣市を紹介するラジオ番組などを聞いているときに、「江別市もラジオ番組で紹介してくれれば良いのに」と考えていたところであり、今回のプロジェクトで取り組まれる予定であることを嬉しく感じた。

江別市は、最近ではお洒落な飲食店も増えてきており、数多くイベントも開催されているので、ラジオ番組で取り上げてもらうことで、まち全体が賑わってくれることに期待したい。

また、旧岡田住宅改築事業について、私は江別地区に住んでおり、国土交通省の「かわまちづくり」事業による旧岡田倉庫の改築が完了することは聞き知っていたが、旧岡田住宅が内閣府の交付金を活用して改築予定であることは、今回が初耳だった。

地元の住民に対する報告や説明というところは、どのようにされるものなのか。

#### ○事務局

先ほどの説明にもあったが、昨日、来年度の予算が議決されたところであり、内閣府の交付金も申請段階のものであるため、今後、地元に対する報告等がされると考えるが、所管部局に申し伝えておきたい。

#### ○保田委員

先ほど、紹介動画に関する意見があったが、介護やご高齢の方に対する制度についても、文字が多い書類が多数を占めているので、イラストを多用して視覚的に伝えられるような媒体があると良いのではないかと感じている。

これからは、子育てと介護のダブルケアなども必要になってくる時代になるので、江別市は長く住んでいる方にも住みやすいまちであると思ってもらえる取組を続けると、江別市がより選ばれるまちになるのではないかと考える。

もう1点、デジタル普及の部分では、市役所におけるキャッシュレス決済導入事業は非常に良い取組であると考えているが、ご高齢の方をはじめとして、デジタルにまだ慣れていない方も一定数いらっしゃるので、デジタル化と並行して、デジタル化へのアクセスの仕方なども伝えていくと、より丁寧な取組になると考える。

#### ○事務局

様々なケアの必要性についてご意見をいただいた。

老老介護やヤングケアラーの問題のほか、外国人の方との共生についても、今後必要になると考えており、第3期の総合戦略でも江別版「生涯活躍のまち」構想の推進に加えて、外国人との相互理解の促進を掲げていることから、共生社会の実現に向けた取組を進めていきたい。

#### ○千野委員

シティプロモーション高度化プロジェクトのKPIに、「本取組による移住者数」を

挙げているが、転入者などにアンケートのような形で数値を取っていくのか。

○事務局

そのとおりである。

これまでも、年に1度、転入アンケートを実施してきたが、今回のプロジェクトの開始に合わせて、転入アンケートを随時実施する形に変更した上で、質問項目も刷新し、例えば転入や進学といった「移住」とは異なる転入理由かどうかを調査するなどして、転入されてきた世帯のうち、何割ほどが「移住」を目的に江別市に転入されてきたかを調査する予定である。

なお、転入アンケート自体は、転入届の提出時にお渡しする。

○千野委員

このようなアンケートは、回答率を上げることで正確性を高めていく必要があるが、転入された直後の方への調査という意味では、大変さがあると思う。

回答率を上げるために、例えば、回答者にはセラミックアートセンターの入場券を差し上げるなど、転入された方へ江別市の生涯学習施設の利用機会を提供するという工夫があっても良いのではないか。費用がかかることは難しいかもしれないが、回答率を上げる工夫を検討していただければと思う。

○龍田副委員長

デジタル実装タイプの子どものタブレット端末を活用した学びの充実の点で、1点意見したい。

先日、報道で、早くからデジタル端末を活用した学習を始めていた北欧で、小学校や中学校の授業にタブレットを導入したところ、学力が低下したというデータが顕著に現れてきたというものがあつた。それらの国では、一度立ち止まって、紙媒体での学習に戻すかどうかという議論をし始めているという。

日本では、タブレット学習が若干遅れて導入されてきたからこそ、先進的に取り組んだ国の評価や議論などを見守りながら進めるチャンスもあるので、タブレットありきのデジタル学習ではなく、実際の教育現場、使用する児童生徒、そしてその保護者の意見などをしっかりと取り入れた中で、メリットとデメリットを判断し、活用して欲しいと思う。

○福沢委員長

ほかに、委員の皆様から質問や意見はあるか。

【各委員：無し】

○福沢委員長

それでは、オンラインで参加いただいている、両オブザーバーから、報告事項全体を通じて、ご意見を伺いたい。

○矢野オブザーバー

江別市の第3期総合戦略の策定に当たって、各意見や市の考え方が的確に反映されていると感じたところである。

パブリックコメントの意見にもあつたが、江別市には四つの大学が位置するものの、

卒業・就職を契機とした学生の転出、つまり若者の定着不足の問題があるということである。これは、広域を所管する石狩振興局としても、課題であると認識しており、広く意見交換を実施してきているところ。学生達の「やりたいこと」があって首都圏へ就職するというプラス思考を止めることは難しいが、学生時代に江別に愛着を持ってもらって、首都圏へ転出したあとも江別市を応援、PRしていただければ良いと考える。

一方で、江別市など、地元就職したい企業がないから首都圏へ就職するという、マイナス思考による転出は、留めていくべきターゲットとなると考えるので、市の考えに記載されているとおり、企業と学生のマッチングを進めるなどして、若者の地域定着を図っていただきたい。

私が感じる江別市の特色は、都会の人が求める自然が近くにあり、また、地方の人が求める都会も近くにあるという、暮らしやすい地域であるというものである。そのポテンシャルを生かして、総合戦略の各取組を推進していただきたい。

#### ○佐藤オブザーバー

私からは、2点、意見させていただく。

1点目は、以前の委員会でも発言したところだが、江別市におけるデジタルインフラの整備である。

今回、総合戦略に「施策を支えるDXの視点」が新たに盛り込まれ、各施策にどのようなデジタル化、DXが必要かということが記載されているが、それらもデジタルインフラの整備がなければ、なかなか進まないと考えている。

具体的には、自治体で散見されることとして、市役所職員が使っているパソコンのスペックが低すぎて、新しいアプリケーションやDXを導入しても、うまく起動しない、動作が遅延しすぎるということが挙げられる。江別市でDXを進めるという事であれば、パソコンやネットワークといったデジタルインフラの整備を進められることを意見したい。

また、デジタルインフラには、職員一人ひとりがデジタル技術、DXを正しく扱えるような研修、職員育成が同時に必要であると考えている。デジタル機材の整備、アプリケーションの導入には費用がかかるが、しっかりと使えないと効果も半減し、結果として市民や事業者の方にも成果が届いていけないので、職員のデジタルリテラシーを上げていく必要がある。そのようなことを、この第3期の総合戦略の期間中に進めていけば、非常に高い効果が出るのではないかと考える。

2点目は、自治体には類似のシステムが多くあり、全体最適化が求められている点である。例えばオンライン健康相談やオンライン保健指導などを、個別のシステムで実施するのではなく、デジタルを統括する部門が俯瞰して、どの部署でどのシステムを活用すべきかといった全体判断ができるような検討をされると、江別市でも上手くDXが推進されるのではないかとと思うので、期待したい。

### 3 その他

#### ○福沢委員長

次に、次第3 その他 について何かあるか。

【各委員：無し】

○事務局

第3期の総合戦略について、昨年8月の委員会設置以降、4回に渡って集中的にご意見をいただき、感謝する。

本日、総合戦略の最終案をご確認いただいたことから、後日、市長の決裁を受け、来る4月から新たな総合戦略による人口減少対策等を進めたい。

委員各位におかれては、令和7年度以降も、総合戦略や市のDX推進に関して、ご意見を賜るよう、お願いします。

○福沢委員長

江別市には、この戦略の地域ビジョンである「人が集い、行き交う、にぎわいのあるまち」の実現に向けた事業を展開していただきたい。

総合戦略推進委員会も、総合戦略やDXの推進状況等について、引き続き確認し、助言していきたいので、委員各位のご協力をよろしくお願いします。

本日予定していた議事は全て終了した。

以上を持って第4回江別市総合戦略推進委員会を閉会する。

#### 4 閉会